

歴史ロマンと自然豊かな臥牛山国国有林

がぎゅうざん

岡山森林管理署

高梁市街地の後背地に位置する臥牛山は、古くは「松山」と呼ばれていましたが、江戸時代に入り、牛が伏せた姿に似ていることから「臥牛山」と呼ばれ、現在では市民の憩いの場として親しまれています。

古来、高梁は「備中の国」として高梁川流域の交通、政治、経済の中心として栄え戦国時代は、三村、毛利の戦いの地として、尼子氏の再興を願った山中鹿之介終焉の地として



備中松山城

有名であり、関ヶ原の合戦後徳川家

康は、毛利氏から領土を取り上げ小堀遠州に備中国奉行として治めさせ、以後、藩主は水谷氏へと変遷しましたが、現存する「備中松山城」は水谷氏の時代に大修築が行われ、最後の藩主老中板倉勝静氏に至りました。また、この松山城は国指定の重要文化財として、日本一高い所にある城としても有名です。

「臥牛山国国有林」は、この城を取り囲む形で所在し、面積は一三四ヘクタールで臥牛山風景林に指定されています。

西向き斜面は、そのほとんどが一〇〇年生以上の天然林で、植生は変化に富み貴重な自然が残り、中でも「森の巨人たち百選」に指定された「臥牛山のアベマキ」は市民から親



森の巨人たち百選
臥牛山のアベマキ

しまれています。また、この一帯は天然記念物「臥牛山のサル」の生息地となっているほか、四季を通じて野鳥、昆虫が多く、岡山県内でも有数の自然観察地となっています。



臥牛山のサル

東向き斜面は、林令九〇〜一〇〇年生のヒノキ人工林が広がり、文化財修復のため必要な檜皮を、平成一五年度に岡山県内の国国有林で初めて採取しました。

備中松山城の飲料水貯水池「大池」(国史跡)付近のヒノキ人工林(面積約一ヘクタール、林令九七年生)は、平成一六年一〇月に襲来した台風二三号により風倒木被害を受け、平成一七年度に風倒木処理を行いました。現地には車道がないことや景観等に配慮して、ヘリコプターにより風倒木と周辺のヒノキ人工林(面積一二・八ヘクタール、林令八六年生)の搬出を行いました。集材に当たっては、天然記念物ニホンザルの生態に配慮し、地元教育委員会等と連携を図りながら事

業を行い、更には、被害跡地の一部に、学校植林活動の一環として、高梁市立川面小学校の児童八〇人がシバクリ、アベマキ、イロハモミジ、ヤマザクラを二五〇本植栽するなど、緑化意識の高揚を図りました。

このように臥牛山国国有林は、多様な機能を持つ森林であり、これから地域住民と共に貴重な自然を守り育てていく考えです。



児童による植樹活動の様子

高梁市の観光：城下町として武家屋敷や頼久寺庭園(小堀遠州作庭)の外、ベンガラで有名な吹屋ふるさと村等があり、映画ロケ地としても有名で、「男はつらいよ」(フーテンの寅)の第八作、第三作として、また、「八つ墓村」ロケ地の広兼邸等があります。

〒七〇八・〇〇〇六

岡山県津山市小田中二二八・一

TEL 〇五〇・三一六〇・六一三五

FAX 〇八六八・三三・二二五〇

http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/

okayama/